

田中勳儀教授 略歴

○学歴

- 一九七一年三月 京都府立桂高等学校卒業
- 一九七二年四月 同志社大学文学部文化学科国文学専攻入学
- 一九七六年三月 同右卒業
- 一九七六年四月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程入学
- 一九七九年三月 同右修了

○職歴

- 一九七六年四月 同志社香里中学・高等学校嘱託講師（一九七九年三月まで）
- 一九七九年四月 大阪府立牧野高等学校教諭
- 一九八一年三月 同右依願退職
- 一九八一年四月 松蔭女子学院大学文学部助手
- 一九八二年四月 松蔭女子学院大学文学部専任講師
- 一九八五年三月 同右依願退職
- 一九八五年四月 同志社大学文学部専任講師
- 一九八七年四月 同志社大学文学部助教
- 一九九三年四月 同志社大学文学部教授
- 一九九四年四月 同志社大学大学院文学研究科博士課程前期科目担当

一九九六年四月 同志社大学大学院文学研究科博士課程前期課程教授

二〇〇〇年四月 同志社大学大学院文学研究科博士課程後期課程教授

○役職歴

一九九四年四月～一九九五年三月 同志社大学文学部文化化学科学生主任

一九九八年四月～一九九九年三月 同志社大学文学部文化化学科教務主任

二〇〇一年四月～二〇〇三年三月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻教務主任

二〇〇二年四月～二〇〇四年三月 同志社大学評議員

二〇〇七年四月～二〇〇八年三月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻教務主任

二〇一一年四月～二〇一二年三月 同志社大学文学部国文学科教務主任

二〇一二年四月～二〇一三年三月 同志社大学文学部国文学科学生主任

二〇一五年四月～二〇一六年三月 同志社大学文化学会会長

二〇一五年四月～二〇一六年三月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻教務主任

二〇一七年四月～二〇一八年三月 同志社大学文学部国文学科研究主任

二〇一八年四月～二〇二〇年三月 同志社大学国文学会会長

○非常勤講師歴

龍谷大学、関西大学、花園大学、立命館大学、仏教大学、京都女子大学、光華女子大学、梅花女子大学

○所属学会

日本近代文学会（評議員、編集委員）、昭和文学会（幹事、編集委員長）、日本文学協会（委員）、泉鏡花研究会（幹事）、全国大学国語
国文学会（評議員）、無頼文学会（監事）、芸術至上主義文芸学会、日本歌謡学会、能楽学会

田中勳儀教授 主要業績

〈学位論文〉

修士論文 鏡花「雪柳」論―怪異空間醸成への道―（一九七九年三月、同志社大学）

〈単著〉

『泉鏡花文学の成立』（一九九七年二月二十八日、双文社出版）

*書き下ろし論文「義血俠血」成立考―註釈への試み―、「峰茶屋心中」の成立過程―泉鏡花と神戸―、「薄紅梅」の成立過程―北田薄氷・富松登久・伊藤晴雨らをめぐる―を含む一三編の論文および資料紹介二編から成る。

〈編著〉

『泉鏡花「高野聖」作品論集』（二〇〇三年三月二十五日、クレス出版）

*二二編の先行研究論文を収録。「泉鏡花『高野聖』作品論参考文献目録」「解説」を付す。

『新編泉鏡花集』全一〇巻・別巻二（二〇〇三年一〇月七日～二〇〇六年一月二〇日、岩波書店）

*秋山稔・須田千里・田中勳儀・吉田昌志共編。第六巻「京阪」、第十巻「東北」、別巻二「著作目録」を編集。

『鏡花紀行文集』（二〇一三年二月一七日、岩波書店〔岩波文庫〕）

*泉鏡花の紀行文一六編を収録。「注」「解説」を付す。

『田中英光事典』（二〇一四年四月三〇日、三弥井書店）

*越前谷宏・島田昭男・田中勳儀・塚越和夫・橋詰静子・矢島道弘共編。「田中英光作品事典」一一七項目を担当執筆。「田中英光著作目録（雑誌・新聞の部）」を編集。

『初稿・山海評判記』（二〇一四年七月二五日、国書刊行会）

* 泉鏡花作、小村雪岱画、田中勸儀編。「初稿・山海評判記」解題」を執筆。

〈単行本所収論文〉

田中英光―虚構の敗北に殉じた死（山崎國紀編『自殺者の近代文学』一九八六年二月五日、世界思想社）

新進作家時代の鏡花―「聾の一心」「貧民俱樂部」（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花』一九八七年一月二〇日、有精堂）

従軍する作家たち（有精堂編集部編『講座昭和文学史第3巻 抑圧と解放（戦中から戦後へ）』一九八八年六月一〇日、有精堂）

「祇園物語」の成立過程 泉鏡花と京都（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第二集』一九九一年一月三日、有精堂）

「紫障子」の成立過程―泉鏡花と奈良・京都・大阪（泉鏡花研究会編『論集大正期の泉鏡花』一九九九年二月一〇日、おうふう）

夏目漱石と泉鏡花（玉井敬之編『漱石から漱石へ』二〇〇〇年五月八日、翰林書房）

今市子『百鬼夜行』論―民俗学を支えられたストーリー（一柳廣孝ほか編『ホラー・ジャパネスクの現在』二〇〇五年一月二三日、青弓社）

樋口一葉と同時代作家―北田薄氷・泉鏡花を中心に（樋口一葉研究会編『論集樋口一葉IV』二〇〇六年十一月二五日、おうふう）

『台湾愛国婦人』の特色―作家・画家の寄稿と編集方針を中心に（高山実佐編『台湾愛国婦人』の研究―本文篇・研究篇』二〇一五年二月

一日、国学院大学）

泉鏡花「南地心中」の上演―原作者と脚色者の関係をめぐって（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第六集』二〇一二年八月三〇日、和泉書院）

『台湾愛国婦人』における乃木希典の形象（下岡友加・柳瀬善治編『台湾愛国婦人』研究論集―〈帝国〉日本・女性・メディア』二〇二二

年三月二日、広島大学出版会）

「湯島詣」の上演（『科学研究費研究成果報告書 泉名月氏旧蔵泉鏡花未調査資料の実証的研究』二〇二三年三月三日、能登印刷）

「深沙大王」の上演（『科学研究費研究成果報告書 泉名月氏旧蔵泉鏡花未調査資料の実証的研究』二〇二三年三月三日、能登印刷）

「菟蓐本」の成立（『科学研究費研究成果報告書 泉名月氏旧蔵泉鏡花未調査資料の実証的研究』二〇二三年三月三日、能登印刷）

〈逐次刊行物所収論文〉

- 鏡花作品の表現構造と謡曲―「亮色鴨南蛮」の場合（『同志社国文学』12、一九七七年三月、同志社大学国文学会）
- 鏡花「雪柳」考―一本松の形象をめぐって（『同志社国文学』16、一九八〇年三月、同志社大学国文学会）
- 「遊行車」の成立過程―泉鏡花と『二話一言』（『文林』16、一九八一年二月、松蔭女子学院大学学術研究会）
- 岩田豊雄「海軍」論（『文林』17、一九八二年一月、松蔭女子学院大学学術研究会）
- 「白鷺」小論（『芸術至上主義文芸』9、一九八三年一月、芸術至上主義文芸学会）
- 「白羽箭」の成立過程―泉鏡花と会津若松（『文林』18、一九八三年二月、松蔭女子学院大学学術研究会）
- 鏡花「葉草取」覚書（『同志社国文学』23、一九八四年三月、同志社大学国文学会）
- 「遊行車」をめぐって―「ふとで者」の行衛（『鏡花研究』6、一九八四年一月、石川近代文学館）
- 泉鏡花と宝の市神事（『すみのゑ』182、一九八六年一〇月、住吉大社社務所）
- 「南地心中」の成立過程―泉鏡花と大阪（『日本近代文学』35、一九八六年一〇月、日本近代文学会）
- 中井英夫「虚無への供物」―反世界への意思（『国文学』33―4、一九八八年三月、學燈社）
- 「妙の宮」成立考―明治二十九年の鏡花（『鏡花研究』7、一九八九年三月、石川近代文学館）
- 古井由吉「櫛の火」―幽顕のあわいに（『国文学』36―1、一九九一年一月、學燈社）
- 丹羽文雄「鮎」論―（生母もの）の虚構性（『同志社国文学』35、一九九一年三月、同志社大学国文学会）
- 丹羽文雄の従軍―（ペン部隊）から「還らぬ中隊」へ（『同志社国文学』41、一九九四年一月、同志社大学国文学会）
- 「窮鳥」の発見―出発期の泉鏡花（『根室市博物館開設準備室紀要』9、一九九五年三月、根室市博物館開設準備室）
- 村上春樹「ノルウェイの森」―現実界と他界との間で（『国文学』40―4、一九九五年三月、學燈社）
- 大江健三郎「洪水はわが魂に及び」―物語の成立に向けて（『国文学』42―3、一九九七年二月、學燈社）
- 丹羽文雄の南方徴用―ツラギ海峡夜戦から「海戦」へ（『昭和文学研究』35、一九九七年七月、昭和文学会）

- 村上春樹「めくらやなぎと眠る女」―喪失感の治癒に向けて（『国文学』43―3、一九九八年二月、學燈社）
- 鏡花と猫（『幻想文学』52、一九九八年三月、幻想文学出版局）
- 田中英光と雑誌「でかめろん」―全集未収録作品をめぐって（『無頼の文学』22、一九九八年四月、無頼文学会）
- 「失敗園」論（『太宰治研究』6、一九九九年六月、和泉書院）
- 南方徴用後の丹羽文雄―「みぞれ宵」から「甘酒」まで（『芸術至上主義文芸』25、一九九九年一月、芸術至上主義文芸学会）
- 「山海評判記」成立考―旅館・鉄道・井戸覗き（『鏡花研究』9、二〇〇〇年三月、石川近代文学館）
- 鏡花文学と（土地）の力―関西と東北の旅から（『エリイカ』32―13、二〇〇〇年一〇月、青土社）
- 田中英光の文学―虚構への信頼（『流風余韻』3、二〇〇二年三月、高知県立文学館）
- 田中英光と太宰治（『太宰治研究』11、二〇〇三年六月、和泉書院）
- 泉鏡花「神鑿」の周辺―小島烏水との関係を中心に（『国語と国文学』80―8、二〇〇三年八月、東京大学国語国文学会）
- 「黒髪」「龍胆と撫子」の成立過程―編修資料の調査をとおして（『文学 隔月刊』5―4、二〇〇四年七月、岩波書店）
- 岩田豊雄「海軍」の展開（『同志社国文学』61、二〇〇四年一月、同志社大学国文学会）
- 泉鏡花「湯島詣」の成立と変容（『日本近代文学』72、二〇〇五年五月、日本近代文学会）
- 田辺聖子の（男性評伝）―『ひねくれ一茶』『道頓堀の雨に別れて以来なり』（『国文学 解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子 戦後文学への新視角』二〇〇六年七月、至文堂）
- 関西の鉄道と泉鏡花（いずみブックレット1『鉄道―関西近代のマトリクス』二〇〇七年一月、和泉書院）
- 泉鏡花文学の受容―没後を中心に（『国文学 解釈と鑑賞』74―9、二〇〇九年九月、ぎょうせい）
- 泉鏡花「玉造日記」考―自筆原稿から窺えること（『鏡花研究』12、二〇一〇年三月、石川近代文学館）
- 泉鏡花と同時代出版物―明治期ボール表紙本・園芸書など（『国語と国文学』87―5、二〇一〇年五月、東京大学国語国文学会）
- 菊池寛「昭和の軍神 西住戦車長伝」考―伝記小説・演劇・映画（『日本文学』60―11、二〇一一年一月、日本文学協会）

上方の「巳さん信仰」〔月刊みんぱく〕37―1、二〇二三年一月、国立民族学博物館〕

泉鏡花「松の葉」考―自筆原稿から窺えること〔鏡花研究〕13、二〇二三年三月、石川近代文学館〕

離党後の田中英光―神山裕一宛書簡と「お洒落狂女」自筆原稿をめぐって〔同志社国文学〕78、二〇一三年三月、同志社大学国文学会〕

田中英光とアドルム―「催眠剤のこと」「アドルム禍」〔同志社国文学〕80、二〇一四年三月、同志社大学国文学会〕

小栗風葉「手梶足桎」と〈換菓篇〉―自筆原稿と「二六新報」から窺えること〔同志社国文学〕81、二〇一四年一月、同志社大学国文学会〕

田中英光の戦中・戦後―戦地からの書簡と「肉体だけが人間ではない」自筆原稿をめぐって〔同志社国文学〕84、二〇一六年三月、同志社大学国文学会〕

社大学国文学会〕

泉鏡花「銀鼎」成立考―東北旅行と池田蕉園をめぐって〔日本近代文学〕94、二〇一六年五月、日本近代文学会〕

泉鏡花における山と海〔幽〕28、二〇一七年二月、KADOKAWA〕

泉鏡花が描いた〈物語〉―近代幻想文学と民俗学の交流〔文学・語学〕227、二〇一九年二月、全国大学国語国文学会〕

泉鏡花「南地心中」取材メモ―明治四十四年の住吉大社宝の市〔同志社国文学〕91、二〇一九年二月、同志社大学国文学会〕

田中英光の青年時代―「非望」創刊号と戦中書簡〔同志社国文学〕92、二〇二〇年三月、同志社大学国文学会〕

田島金次郎と泉鏡花〔鏡花研究〕14、二〇二〇年三月、石川近代文学館〕

泉鏡花「夜又ヶ池」の上演―台本への書き込みと自筆原稿の挿入〔国語と国文学〕97―5、二〇二〇年五月、東京大学国語国文学会〕

泉鏡花「通夜物語」の上演―原作者と脚色者の関係をめぐって〔昭和文学研究〕81、二〇二〇年九月、昭和文学会〕

『台湾愛国婦人』の文芸欄―泉鏡花とその周辺〔台湾愛国婦人〕復刻版別冊、二〇二〇年一月、三人社〕

泉鏡花と須永朝彦〔ユリイカ〕53―11、二〇二二年九月、青土社〕

田中英光の青年時代・続―ロサンゼルスオリシピックと軍事郵便〔燧〕7、二〇二二年四月、『燧』編集部〕

泉鏡花の信州旅行―大正二年の旅から生まれた小説〔同志社国文学〕97、二〇二二年二月、同志社大学国文学会〕

〈目録〉

- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）『同志社国文学』13、一九七八年三月、同志社大学国文学会
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺（『鏡花研究』5、一九八〇年五月、石川近代文学館）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺二（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花』一九八七年二月二〇日、有精堂 一九九九年一〇月一〇日、和泉書院）
- 泉鏡花主要参考文献案内（『泉鏡花研究会会報』3、38、一九八八年六月〜二〇〇二年二月、泉鏡花研究会）
- 泉鏡花主要参考文献目録（『国文学 解釈と鑑賞』54―11、一九八九年一月、至文堂）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺三（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第二集』一九九一年二月三日、有精堂 一九九九年一〇月一〇日、和泉書院）
- 竹久夢二主要参考文献目録（萬田務監修『竹久夢二文学館別巻 資料編』一九九三年二月二五日、日本図書センター）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺四（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第三集』一九九九年七月三〇日、和泉書院）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺五（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第四集』二〇〇六年一月二五日、和泉書院）
- 泉鏡花主要参考文献目録（『国文学 解釈と鑑賞』74―9、二〇〇九年九月、ぎょうせい）
- 吉村博任先生泉鏡花研究著述目録（『鏡花研究』12、二〇一〇年三月、石川近代文学館）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺六（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第五集』二〇一一年九月二〇日、和泉書院）
- 小林輝冶先生泉鏡花研究主要著述目録（『鏡花研究』14、二〇二〇年三月、石川近代文学館）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺七（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第六集』二〇二一年八月三〇日、和泉書院）
- 泉鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺八（泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第七集』二〇二二年二月二五日、和泉書院）

〈書評・書籍紹介〉

- 〔書評〕玉井敬之著『夏目漱石論』（同志社国文学）12、一九七七年三月、同志社大学国文学会）
- 〔書評〕平井修成著『研究・泉鏡花』（静岡新聞）一九八六年七月二七日朝刊、静岡新聞社）
- 〔新刊紹介〕高桑法子著『幻想のオイフォラー―泉鏡花を起点として』（同志社時報）105、一九九八年三月、同志社大学）
- 〔新刊紹介〕千葉正昭著『記憶の風景―久保田万太郎の小説』（国文学解釈と鑑賞）64 7、一九九九年七月、至文堂）
- 〔書評〕高桑法子著『幻想のオイフォラー―泉鏡花を起点として』（泉鏡花研究会会報）15、一九九九年二月、泉鏡花研究会）
- 〔犀の眼〕大橋毅彦著『室生犀星への／からの地平』（室生犀星研究）20、二〇〇〇年六月、室生犀星学会）
- 〔書評〕三田英彬著『近代の文学―泉鏡花・川端康成』（芸術至上主義文芸）26、二〇〇〇年十一月、芸術至上主義文芸学会）
- 〔書評〕増田周子著『宇野浩二文学の書誌的研究』、増田周子編『宇野浩二書簡集』（国文学）81、二〇〇〇年十一月、関西大学国文学会）
- 〔書評〕平井修成著『文学的体験とはどのようなものか』（常葉国文）25、二〇〇〇年二月、常葉学園短期大学国語国文学会）
- 〔書評〕浦西和彦著『現代文学研究の枝折』（国文学）47 6、二〇〇二年五月、學燈社）
- 〔書評〕橘正典『鏡花変化帖』を読む（「あしかび」63、二〇〇二年一月、「あしかび」同人社）
- 〔紹介〕『泉鏡花「高野聖」作品集』（泉鏡花研究会会報）19、二〇〇三年二月、泉鏡花研究会）
- 〔書評〕荒井真理亜著『上司小剣文学研究』（日本文学）55 5、二〇〇六年五月、日本文学協会）
- 〔新刊紹介〕末國善己編『国枝史郎歴史小説傑作選』（昭和文学研究）53、二〇〇六年九月、昭和文学会）
- 〔新刊紹介〕赤尾勝子著『泉鏡花論―心境小説の特質をめぐって』（芸術至上主義文芸）32、二〇〇六年十一月、芸術至上主義文芸学会）
- 〔紹介〕濱川勝彦・半田美永・秦昌弘・尾西康充編著『丹羽文雄と田村泰次郎』（日本近代文学）77、二〇〇七年一月、日本近代文学会）
- 〔書評〕竹村民部・鈴木貞美編『関西モダニズム再考』（日本文学）57 10、二〇〇八年一月、日本文学協会）
- 〔紹介〕浦西和彦・増田周子・荒井真理亜編著『大阪叢書⑥大阪文藝雑誌総覧』（日本近代文学）89、二〇一三年一月、日本近代文学会）
- 〔書評〕小林弘子著『泉鏡花 逝きし人の面影に』（泉鏡花研究会会報）29、二〇一三年二月、泉鏡花研究会）

- 〔図録紹介〕『泉鏡花展―ものがたりの水脈』（『泉鏡花研究会会報』29、二〇一三年二月、泉鏡花研究会）
- 〔書評〕秋山稔著『泉鏡花 転成する物語―物語の成り立ち丹念に追う』（『北国新聞』二〇一四年六月三日朝刊、北国新聞社）
- 〔書評〕淺野洋著『小説の〈顔〉』（『日本近代文学会関西支部会報』20、二〇一四年一〇月、日本近代文学会関西支部）
- 〔紹介〕『鏡花紀行文集』（『泉鏡花研究会会報』30、二〇一四年二月、泉鏡花研究会）
- 〔書評〕吉田昌志著『泉鏡花素描』（『日本近代文学』96、二〇一七年五月、日本近代文学会）
- 〔書評〕村松友規著『アリと猪木の物語―つぶさに見守る心情』（『北国新聞』二〇一八年二月三日朝刊、北国新聞社）
- 〔紹介〕愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』明治編 復刻版 全三八巻・別巻一（『泉鏡花研究会会報』36、二〇二〇年一二月、泉鏡花研究会）
- 花研究会
- 〔紹介〕剣町柳一郎著『化鳥外伝 泉鏡花繚乱』（『泉鏡花研究会会報』36、二〇二〇年一二月、泉鏡花研究会）
- 〔紹介〕水野俊介・稲葉美和CD『海を織る』（『泉鏡花研究会会報』36、二〇二〇年一二月、泉鏡花研究会）
- 〔紹介〕東雅夫編『耽美憧憬の泉鏡花 小説篇』（『泉鏡花研究会会報』37、二〇二二年一二月、泉鏡花研究会）
- 〈資料紹介・解説、その他〉
- 谷崎潤一郎『吉野葛』／会津八一『鹿鳴集』（奈良県史編集委員会編『奈良県史9 文学―風土と文学』一九八四年六月二五日、名著出版）
- 泉鏡花「高野聖」（『有精堂編集部編』『近代小説研究必携―卒論・レポートを書くために1』一九八八年四月一〇日、有精堂）
- 〔資料紹介〕処女作談（一）泉鏡花の「夜行巡査」（『泉鏡花研究会会報』4、一九八八年一二月、泉鏡花研究会）
- 田辺聖子／富岡多恵子（『国文学』35―6、一九九〇年五月、臨時増刊〔現作作家便覧〕學燈社）
- 〔校訂・解説〕泉鏡花「龍潭譚」（『有精堂編集部編』『短篇の愉楽2 近代小説のなかの異空間』一九九一年三月二〇日、有精堂）
- 澁澤龍彦「高丘親王航海記」／水上勉「金閣炎上」（『国文学』37―11、一九九二年九月、臨時増刊〔現代の小説101篇の読み方〕學燈社）
- 龍安寺―井上靖「石庭」（『国文学解釈と鑑賞別冊 近代詩歌のふるさと 西日本篇』一九九三年一月、至文堂）
- 鏡花研究会のこと（『石川近代文学館編』『開館二十五周年記念 石川近代文学館と私』一九九三年三月三一、石川近代文学館）

近松秋江と泉鏡花（『近松秋江全集月報』11、一九九四年四月、八木書店）

河野多恵子「妖術記」／村上春樹「羊をめぐる冒険」（『国文学』41—9、一九九六年七月、臨時増刊（世界そして日本の現代幻想小説の読

み方101）學燈社）

泉鏡花（上田博ほか編『日本近代文学を学ぶ人のために』一九九七年七月二〇日、世界思想社）

〔資料室〕雑誌「季刊 日本橋」細目「鏡花・荷風・潤一郎らをめぐって」（『日本近代文学』57、一九九七年一〇月、日本近代文学会）

研究の基本的な文献にはどんなものがあるか（論文・レポート作成必携編集委員会編『近代文学現代文学 論文・レポート作成必携 別冊国

文学51』一九九八年七月、學燈社）

ハルキ・ワールドをめぐる冒険―新しい小説につながる思索の道程―紀行（アエラムック『村上春樹がわかる』二〇〇一年二月、朝日新

聞社）

〔資料紹介〕「夜の大阪」改題再掲「冬ごもり」（『泉鏡花研究会会報』17、二〇〇一年二月、泉鏡花研究会）

〔資料紹介〕絵はがき「つや物語」（『泉鏡花研究会会報』17、二〇〇一年二月、泉鏡花研究会）

〔鏡花全集〕未収録資料紹介―「子守役から筆を執るまで」（『鏡花研究』10、二〇〇二年三月、石川近代文学館）

〔資料紹介〕「夜寒の爪びき」（『泉鏡花研究会会報』18、二〇〇二年二月、泉鏡花研究会）

〔資料紹介〕市丸小唄集「鏡花選」（『泉鏡花研究会会報』18、二〇〇二年二月、泉鏡花研究会）

〔研究ノート〕著作目録を作るために―泉鏡花・田中英光の場合（『日本近代文学』69、二〇〇三年一〇月、日本近代文学会）

地域別編集『新編泉鏡花集』刊行始まる―鏡花の世界親しみ増す（『北陸中日新聞』二〇〇三年一月二日朝刊、北陸中日新聞社）

〔資料紹介〕鉄道俳句（『泉鏡花研究会会報』20、二〇〇四年二月、泉鏡花研究会）

〔資料紹介〕天理大学附属天理図書館蔵泉鏡花草稿四種（『同志社国文学』62、二〇〇五年三月、同志社大学国文学会）

泉鏡花が生まれた土地に（『全国文学館協議会編』『全国文学館ガイド』二〇〇五年八月二〇日、小学館）

（『新編泉鏡花集 別巻二』（岩波書店）編纂余話）泉鏡花「著作目録」を作成して（『泉鏡花研究会会報』21、二〇〇五年二月、泉鏡花研

究会)

「解題Ⅱ」『ひねくれ一茶』——一茶を囲む女性たち（『田辺聖子全集 第十八巻』二〇〇五年五月一〇日、集英社）

「資料紹介」小説絵葉書「水鶏の里」一節 泉鏡花作 錦木清方画（『泉鏡花研究会会報』21、二〇〇五年一月、泉鏡花研究会）

「解題Ⅱ」『道頓堀の雨に別れて以来なり——川柳作家・岸本水府とその時代』（『田辺聖子全集 第二十巻』二〇〇六年四月一〇日、集英社）

「資料紹介」「麗を哀む」の初出（『泉鏡花研究会会報』22、二〇〇六年二月、泉鏡花研究会）

新保千代子氏の泉鏡花研究（『鏡花研究』11、二〇〇七年三月、石川近代文学館）

〈文庫・記念館〉 泉鏡花記念館（『日本近代文学館』218、二〇〇七年七月、日本近代文学館）

芥川龍之介資料二題——春陽堂版『鏡花全集』編纂と、小説「庭」自筆原稿断簡（『芥川龍之介全集集月報』8、二〇〇七年八月、岩波書店）

綾鼓——近代文学への架橋（『廣田鑑賞会誌』9、二〇〇七年一月、廣田鑑賞会）

「資料紹介」生田葵山宛年賀状三通（『泉鏡花研究会会報』23、二〇〇七年二月、泉鏡花研究会）

〈追悼〉吉村博任先生の暖かさ（『泉鏡花研究会会報』23、二〇〇七年二月、泉鏡花研究会）

泉鏡花が描いた、祇園の芸妓と京の水（『ぎをん』193、二〇〇八年一月、祇園甲部組合）

泉鏡花はどのように読まれてきたか／鏡花作品代表選20／主要〈鏡花論20編〉／泉鏡花略年譜（『劇場文化』12、二〇〇八年五月、静岡舞台

芸術センター）

「資料紹介」金子薫園宛年賀状三通／寄せ書き葉書一通（『泉鏡花研究会会報』24、二〇〇八年二月、泉鏡花研究会）

「歌行燈」の上演（演劇倶楽部「座」第22回公演「詠み芝居「歌行燈」プログラム」二〇〇九年一月、演劇倶楽部「座」）

戦時下の「文学界」——文学賞の制定から廃刊まで（『復刻「文学界」解説・総目次・索引』二〇〇九年四月一五日、不二出版）

祇園界隈を走った路面電車（『ぎをん』199、二〇〇九年七月、祇園甲部組合）

鏡花文学の受容（没後を中心に）（『国文学 解釈と鑑賞』74—9、二〇〇九年九月、ぎょうせい）

あらずじで読む鏡花50選（『別冊太陽』167「美と幻影の魔術師 泉鏡花」二〇〇九年一月三日、平凡社）

文学研究における継承と断絶―関西支部草創期から見返す（日本近代文学会関西支部編『文学研究における継承と断絶』二〇〇九年二月

一〇日、和泉書院）

〔資料紹介〕菊人形のお蔭主税（『泉鏡花研究会会報』25、二〇〇九年二月、泉鏡花研究会）

私の鏡花ものゝ収集（『鏡花雪うさぎ』5、二〇一〇年三月、泉鏡花記念館）

〔資料紹介〕「夏四十五句」の自筆原稿（『泉鏡花研究会会報』26、二〇一〇年二月、泉鏡花研究会）

泉鏡花幻想劇の魅力―「海神別荘」の上演史から（『葦の葉』328、二〇一二年四月、日本文学協会近代部会）

鏡花文学との出会いと石川近代文学館（石川近代文学館編『平成鏡花事始』二〇一二年九月一日、石川近代文学館）

泉鏡花を知る78冊―評論・評伝・ガイドブック・研究書等（『田原市立図書館ふしぎ半島プロジェクト』二〇一二年一月、愛知県田原図

書館）

〈コラム〉泉鏡花と京都（同志社大学京都観学研究会編『大学的京都ガイド―こだわりの歩き方』二〇一二年二月五日、昭和堂）

鴻仙館・長太居るか・井戸覗き（東雅夫編『柳花叢書』山海評判記／オシラ神の話』二〇一三年八月一日、筑摩書房）

〔資料紹介〕泉鏡花作 久保田万太郎台本「註文帳」舞台写真帖（『泉鏡花研究会会報』29、二〇一三年二月、泉鏡花研究会）

〔資料紹介〕鏡花作 清方面 註文帳画譜 内容見本（『泉鏡花研究会会報』30、二〇一四年二月、泉鏡花研究会）

〔研究展望〕文庫の編集をめぐる―泉鏡花の場合（『昭和文学研究』70、二〇一五年三月、昭和文学会）

〔資料紹介〕喜多村緑郎ほか「南座落がき帖」（『泉鏡花研究会会報』31、二〇一五年二月、泉鏡花研究会）

〔資料紹介〕九九九会に触れた里見淳の自筆原稿（『泉鏡花研究会会報』31、二〇一五年二月、泉鏡花研究会）

〈追悼〉笠原伸夫先生と私（『泉鏡花研究会会報』34、二〇一八年二月、泉鏡花研究会）

〔研究動向〕鉄道と文学（『昭和文学研究』78、二〇一九年三月、昭和文学会）

澁澤・三島・鏡花・柳田（『澁澤龍彦泉鏡花セレクション月報』1、二〇一九年一〇月、国書刊行会）

〔資料紹介〕菊人形の「滝の白糸」（『泉鏡花研究会会報』35、二〇一九年二月、泉鏡花研究会）

手並を見せずや！（遊劇体公演『深沙大王』フライヤー、二〇二二年九月、遊劇体）

「研究展望」『台湾愛国婦人』復刻の価値（『昭和文学研究』84、二〇二二年三月、昭和文学会）

「資料紹介」小村雪俗遺作展目録（『泉鏡花研究会会報』38、二〇二二年二月、泉鏡花研究会）

〈事典項目、その他〉

泉鏡花／歌行燈／婦系図／外科室／高野聖／（谷山茂ほか編『日本文学史事典』一九八二年九月二〇日、京都書房）

大岡昇平「俘虜記」（石本隆一ほか編『日本文芸鑑賞事典』近代名作101選への招待 第14巻』一九八七年五月一日、ぎょうせい）

泉鏡花／岩野泡鳴／大町桂月／尾崎紅葉／河井醉茗／久保田万太郎／獅子文六／杉谷代水／徳富蘆花／深田久弥／南方熊楠／三村竹清／柳

田国男（浦西和彦ほか編『奈良近代文学事典』一九八九年六月二〇日、和泉書院）

「泉鏡花作呂訳論事典」「照葉狂言」「龍潭譚」「鶯花徑」「高野聖」「由縁の女」（『国文学』36—9、一九九一年八月、學燈社）

硯友社の変質（有精堂編集部編『時代別日本文学史事典 近代編』一九九四年六月一五日、有精堂）

田中英光／「桑名古庵」／「蛇と狂人」（無頼文学会編『国文学解釈と鑑賞別冊 作品論への誘い、無頼派を読む』一九九八年一月、至文堂）

田辺聖子（浅井清ほか編『新研究資料現代日本文学 第二巻 小説Ⅱ』二〇〇〇年一月三二日、明治書院）

イノチガケ／風人録／波子／鉄砲（获久保泰幸ほか編『国文学解釈と鑑賞別冊 坂口安吾事典（作品編）』二〇〇一年九月、至文堂）

泉鏡花／伊勢之巻／歌行燈（浦西和彦ほか編『紀伊半島近代文学事典』和歌山・三重』二〇〇二年二月二〇日、和泉書院）

井沢淳／泉鏡花／岩田専太郎／沢村勉／川端康成／岸本水府／瀬戸英二／田辺聖子（日本近代文学会関西支部編『大阪近代文学事典』二〇〇

〇五年五月二〇日、和泉書院）

海辺のカフカ（村上春樹研究会編『村上春樹作品研究事典（増補版）』二〇〇七年一〇月一五日、鼎書房）

種村直樹（日本近代文学会関西支部編『滋賀近代文学事典』二〇〇八年一月二〇日、和泉書院）

泉鏡花／泉名月（片桐慶子編『石川県人名事典 現代篇Ⅱ』二〇一〇年四月三〇日、石川出版社）

賭けるもの／髪／千姫春秋記（芸術至上主義文芸学会編『円地文字事典』二〇一二年四月三〇日、鼎書房）

泉鏡花／舟橋聖一／水上勉（中村明ほか編）『日本語文章・文体・表現事典』二〇一一年六月三〇日、朝倉書店

桂米朝／神尾和寿／村山勇太郎／杜山悠／田辺聖子／元永定正（日本近代文学会関西支部編）『兵庫近代文学事典』二〇一二年一〇月二〇日、

和泉書院

泉鏡花／海老名弾正／ブルーノ・タウト／田中順二／典厩五郎／西田天香／丹羽文雄／平岩弓枝／平田捨穂／細井芳之助／松岡譲／万造寺

齊／村松友視／安井曾太郎／利倉幸一（日本近代文学会関西支部編）『京都近代文学事典』二〇一三年五月一五日、和泉書院

紅葉の共作・代作（山田有策ほか編）『尾崎紅葉事典』二〇一〇年一〇月二八日、翰林書房

真珠／死と鼻唄／西荻随筆／九軍神／田中英光（安藤宏ほか編）『坂口安吾大事典』二〇一二年六月一五日、勉誠社

〈図録〉

田中英光と太宰治・泉鏡花（高知県立文学館編）『田中英光展―純粹な魂の軌跡』一九九九年一〇月九日、高知県立文学館

田岡嶺雲と泉鏡花（高知県立文学館編）『田岡嶺雲展―土佐の反骨』二〇〇〇年一〇月二五日、高知県立文学館

小伝／年譜／主要参考文献（泉鏡花記念館編）『鏡花―泉鏡花記念館』二〇〇九年三月二〇日、改訂増補版二〇一七年三月二〇日、泉鏡花記

念館

「義血俠血」の頃―明治二十七年の上京から二十九年の独立まで／鏡花文学の源へ―泉名月著『羽つき・手がら・鼓の緒』に寄せて（泉鏡

花記念館編）『鏡花生誕140年記念特別展「泉名月氏旧蔵 泉鏡花遺品展」』二〇一三年一〇月五日、泉鏡花記念館

鏡花と鉄道（神奈川文学振興会編）『鏡花生誕140年記念 泉鏡花展―ものがたりの水脈』二〇一三年一〇月五日、神奈川近代文学館

〈学会発表・講演等〉

鏡花「雪柳」孝―民俗的素材と作品構造（一九七九年一月一〇日、日本近代文学会関西支部秋季大会 関西大学）

「白羽箭」（一九八二年二月二二日、石川近代文学館泉鏡花研究会 石川近代文学館）

「葉草取」（一九八四年二月二八日、石川近代文学館泉鏡花研究会 石川近代文学館）

「南地心中」の成立過程（泉鏡花と大阪（一九八五年一〇月二七日、日本近代文学会秋季大会 熊本大学）

- 泉鏡花全集未収録書簡考（一九八六年六月二二日、第六回泉鏡花研究会 青山学院大学）
- 新進作家時代の鏡花―「貧民倶楽部」「聾の一心」（一九八七年八月二二日、第二回泉鏡花研究会例会 諏訪市吉田昌志氏宅）
- 「祇園物語」の成立過程―泉鏡花と京都（一九九一年三月二二日、石川近代文学館泉鏡花研究会 宿舎かも川）
- 丹羽文雄「海戦」論―昭和十七年の徴用（一九九五年五月二七日、日本近代文学会春季大会 成城大学）
- 「峰茶屋心中」略注―摂州摩耶山をめぐる（一九九六年七月四日、第二五回泉鏡花研究会 慶應義塾大学）
- 泉鏡花「義血侠血」成立考（一九九七年六月一四日、日本近代文学会関西支部春季大会 関西学院大学）
- 泉鏡花「薄紅梅」の成立過程（一九九七年八月二二日、第二三回泉鏡花研究会例会 今庄ふれあい会館）
- 樋口一葉と同時代作家（二〇〇二年一月二三日、樋口一葉研究会大会 お茶の水女子大学）
- 泉鏡花作品の成立と変容（二〇〇四年一月〇日、日本近代文学会例会 駒沢大学）
- 天理図書館蔵泉鏡花草稿四種（二〇〇五年三月二五日、第三六回泉鏡花研究会例会 慶應義塾大学）
- 関西の鉄道と泉鏡花（二〇〇七年六月九日、日本近代文学会関西支部春季大会シンポジウム「鉄道―関西近代のマトリクス」パネル―原 武史・浦谷一弘・田口律男・田中勳儀 大阪大学）
- 京都への旅―「祇園物語」を中心に（二〇〇七年一月八日、泉鏡花記念館文学講座 泉鏡花記念館）
- 文学研究における継承と断絶―関西支部草創期から見返す（二〇〇九年六月一三日、日本近代文学会関西支部春季大会シンポジウム パネラー・太田登・田中勳儀・浅野洋 近畿大学）
- 鏡花と旅―「鎧」「城崎を憶ふ」（二〇〇九年一月二二日、第五二回泉鏡花研究会 金沢市近江町交流プラザ）
- 二つの鏡花（二〇一〇年三月九日、日本演出家協会近代戯曲セミナーシンポジウム 下北沢「劇」小劇場）
- 旅と鏡花―東北への旅（二〇一一年二月二日、泉鏡花記念館文学講座 泉鏡花記念館）
- 戯曲「海神別荘」について（二〇一一年一月二〇日、今井里美鏡花幻想譚其の四 六本木ストライプハウスギャラリー）
- 大東和重「郁達夫と大正文学」―〈自己表現〉から〈自己実現〉の時代へ（二〇一二年九月二九日、日本比較文学会関西支部例会 関西学

院大学梅田キャンパス)

「山海評判記」と鏡花・能登の旅(二〇一三年三月一六日、泉鏡花記念館文学講座 泉鏡花記念館)

泉鏡花―美と幻想の光と影(二〇一三年一月四日、泉鏡花記念館シンポジウム パネラー…荒俣宏・秋山稔・田中勳儀 金沢市文化ホール)
泉鏡花―旅から生まれた幻想小説(二〇一四年八月二四日、怖くて不思議な文学展特別講演会 菊池寛記念館)

田中勳儀編『鏡花紀行文集』について(二〇一四年六月八日、今井里美鏡花幻想譚其の六 六月に六本木で読む『鏡花紀行文集』六本木ストライプハウスギャラリー)

泉鏡花の旅と人―東北旅行・池田蕉園・神田謹三(二〇一五年一〇月二四日、日本近代文学会秋季大会 石川県文教会館)

「春昼」「春昼後刻」について(二〇一六年三月六日、今井里美鏡花幻想譚其の九 六本木ストライプハウスギャラリー)

田島金次郎のこと―守田勘弥・泉鏡花・布哇など(二〇一六年三月二八日、第五八回泉鏡花研究会例会 会津向瀧)

旅から生まれた幻想小説―泉鏡花の場合(二〇一六年一月四日、大阪府立大学講演会 大阪府立大学学術情報センター)

「義血俠血」について(二〇一八年二月二五日、今井里美鏡花幻想譚其の十 六本木ストライプハウスギャラリー)

恋と、友情と―明治三十年前後の鏡花、その青春の日々(二〇一八年一月二四日、泉鏡花記念館・金沢文化振興財団主催講演会 鼎談参

加者・鈴木啓子・穴倉玉日・田中勳儀 金沢文芸館)

泉鏡花が描いた〈物語〉―近代文学と民俗学の交流(二〇一八年二月一日、全国大学国語国文学会第一一八回大会公開シンポジウム「物

語が不可能になった時代の中で」パネラー…松本直樹・森田雅也・田中勳儀 明治大学)

「山海評判記」と和歌崎館(二〇一九年三月二七日、第六四回泉鏡花研究会例会 和倉温泉あえの風)

「風流蝶花形」について(二〇一九年四月二八日、今井里美鏡花幻想譚其の十一 六本木ストライプハウスギャラリー)

みんみい―泉鏡花が愛した少女(二〇一九年八月二四日、泉鏡花記念館文学講座 泉鏡花記念館)

近代ツーリズムと作家の旅(二〇二二年一月二七日、日本近代文学会例会「特集…鉄道と文学の一五〇年」オンライン開催)

「湯島詣」の上演―泉鏡花の自筆原稿をめぐって(二〇二二年二月四日、同志社大学国文学会秋季研究発表会 同志社大学)